

JTA
最新技術動向研究部会
2022 レビュー

2023.6.28

樽谷・梶原

テレワーク最新技術動向研究部会



目的	テレワークの課題を支援・解決できる技術・ツールの最新動向を、ユーザ及びベンダ双方の視点を持って、発表・議論等を行うことで、テレワークの定着・進歩に繋げることを目的としている。本部会では『テレワーク関連ツール一覧』を公開、毎年のトレンドに合わせたアップデートを行っている。
活動期間	2022.10~2023.4 ※次年度へ延長中
部会長	鈴木 一郎 ※3月末まで
事務局	樽谷・梶原

部会メンバー(17社22名)



株式会社アルファシステムズ	安藤 譲
株式会社アルファシステムズ	河野 晃
株式会社クロスポイントソリューション	斎数 真人
キヤノンITソリューションズ株式会社	渡辺 裕美
株式会社アクロネット	石川 達夫
株式会社ライブリンクス	浅香 守夫
ZVC JAPAN株式会社	武田 大周
HY技研株式会社	萩原 博子
HY技研株式会社	亀谷 陽
東北芸術工科大学	松村 茂
株式会社リモシア	張 毅強
社会保険労務士法人NSR	武田 かおり
社会保険労務士法人NSR	中島 康之
NPO法人地域産業おこしの会	三浦 拓馬
株式会社パソナ	湯田 健一郎
シスコシステムズ合同会社	谷内 健治
シスコシステムズ合同会社	明瀬 光梨
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ	北村 有紀
NEC ネットズエスアイ株式会社	山本 憲
oVice株式会社	市川 伸
oVice株式会社	薬袋 友花里
エヌビディア合同会社	後藤 祐一郎

※敬称略
※順不同(部会登録順)

今年度のテーマ

■メタバース

- ・さらに進化しているメタバースの活用潮流
- ・HMDの有無を含め、コミュニケーション向上だけでなく、多様な可能性があるメタバース空間について製造現場等へのテレワークの可能性にも注目しています。

■フィールドワーク

- ・建設、製造、サービス、農漁業なども含めたテレワークの延長技術（ドローン、IoT、AIとの組み合わせ）などのケースや新技術展開など、オフィスワークを主眼としたテレワークツール以外

■臨場感の向上

- 大型高精細ディスプレイによる実物大の表示とリアルとの連結空間
- ディスプレイは視覚分野ですが、そのほかの五感分野これらの研究状況

■セキュリティ

- テレワークセキュリティ強化 ゼロトラストセキュリティの実装

■AIアシスタンス (AI秘書、アシスタント) の分野

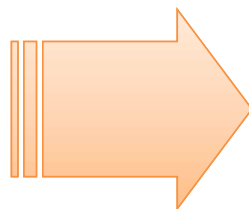
開催報告



回	日付	議題	プレゼンター	テーマ				
				メタバース	フィールドワーク	臨場感向上	セキュリティ	AI
1	10/27	部会説明、自己紹介、テーマ選定	ファシリテーション：JTA					
2	11/18	最新の復元力でPCセキュリティ強化と運用負荷を最小化「V-Recover」	(株)アルファシステムズ 河野様				●	
		テレプレゼンスシステム「窓」を活用した空間接続ソリューション	MUSVI(株) 阪井CEO ※Guest			●		
		超絶ぶれない高品質ウエラブルカメラによる遠隔支援ソリューションXacti	(株)ザクティ 西川様 ※Guest		●			
3	1/19	日本橋イノベーションオフィス見学 Kloud Hybrid 他	NECネットエスアイ(株) 山本様 大貫様			●		
4	2/26	画面転送型テレワークシステム「alpha Teleworker」	(株)アルファシステムズ 河野様			●	●	
		ホロレンズを活用したXR・メタバース体験	HY技研(株) 萩原様	●				
5	3/16	ドローンやスマートグラスを活用した農業・製造業のリモート化	ZVC Japan(株) 武田様		●			
		Zoomのハイブリッドワークにおける臨場感向上の取り組み- Zoom Rooms Zoom Spots	ZVC Japan(株) 武田様			●		
		テレワーク環境におけるセキュリティについて	アクロネット(株) 石川様				●	
6	4/21	「つながる”インフラ”」を目指す新しいovice	oVice(株) ジョン セーヒョン 様	●				

成果物

部会開催のアーカイブは、動画形式で参加メンバと共有。
最終成果物は、毎年更新している「テレワークツール一覧」Ver.8を執筆中、協会公式サイトにて公開予定。



今年度のトピック

オンライン会議に代表されるテレワーク用コミュニケーションツールは、国内中に広がり定着してきた。今後は、さらなる進化により、臨場感の向上などオフィスにいてもいなくてもハイブリッドワークをストレスフリーで実施できる環境となりつつある。

さらに、ツールの用途は、自治体サービスの行き届かない地域でも有効活用される事例がでてきており、誰も取り残さないデジタル田園都市国家構想の一助にもなってきている。

また、ドローンやメタバースの技術との組み合わせにより、災害現場や僻地などの画像を離れた安全な場所で確認し、災害対応やビジネスにも活用されはじめている。

このようにテレワークを支えてきた技術がオフィスワーク以外の分野や業種にも広がってきている。

今年度は、参加企業の皆さまからの新製品の紹介や体験デモ等をリアル&オンライン形式で開催したが、まだ一巡していないため、2023年度も継続して活動する。

また、注目のAI分野の開催ができなかった点と、各テーマを深く掘り下げる議論まではできていないとの反省点もある。

特にセキュリティは、参加者から問題提起があったが、スコープが広範囲かつ専門的分野であるため、今後は分科会として立ち上げていく。

